※令和４年度以降入学生用

学校番号	１０１４

令和８年度　芸術科

教科	芸術科	科目	音楽表現	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	自主作成教材等						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・年間を通して、初等教育・幼児教育の現場で必要な、鍵盤楽器奏法の基礎的な技術及び理論、また演習に必要なソルフェージュ等を学習します。
・発表会形式の実技テストや授業ノート、振り返りシート、到達度チェックシート、日々の授業態度で評価を行います。
・どの楽器も、一朝一夕で演奏できるものではありません。根気よくコツコツと練習する努力が不可欠となります。あきらめず、わからない場合は先生や友達に教えてもらうなどして、日々の課題を乗り越えていきましょう。
・実技教科のため、日々の取り組み姿勢が実技テストに大きく反映されます。休まず積極的に、また内容の理解を念頭に置いて授業に参加することが必須となります。
・基礎・繰り返し練習、奏者・聴衆の存在があって、はじめて音楽が「形」を持ちます。「演奏する」「演奏を聴く・聴いてもらう」を大切にしましょう。

2　学習の到達目標

・初等教育、幼児教育の現場で活用される楽曲について理解するとともに、鍵盤楽器演奏及び弾き歌いの基礎技能を身につける。
・楽譜の読み方、演奏に必要な基礎理論を理解して、個性豊かに演奏表現することができる。
・発表会形式の実技テストにむけて、計画的かつ根気よく取り組む姿勢を身につけ、初等教育、幼児教育の現場で活用される楽曲に親しみながら、音楽表現での学習経験をもとに良き社会人として社会に貢献しようとする態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・初等教育、幼児教育の現場で活用される楽曲の構造や多様性について理解している。 ・鍵盤楽器演奏等に必要な基礎理論を理解して演奏する技能を身につけている。 ・創意工夫を生かした演奏表現に関わる奏法を身につけている。	・楽譜に表示されている様々な音楽理論を正しく表現しようとしている。 ・自分の音を正確に聞き取り、聞き手が理解しやすいよう工夫しながら演奏表現している。 ・鍵盤楽器演奏が正確かつ個性豊かに表現できている。	・主体的に鍵盤楽器演奏の学習活動に取り組もうとしている。 ・毎時の授業への取り組み等の自己評価を正確に行い、次回に反映させている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	基礎演習①	・教育現場で活用される楽曲について ・楽譜の読み方を知る ・右手・左手それぞれの演奏法を学ぶ ・簡単な曲を通して基礎を学ぶ ・発表会	a:楽曲の構造や多様性について知り、基礎理論を理解して演奏している。 b:楽譜に表示されている音楽理論を正しく表現できている。 c:練習後に自らの演奏・表現について正確にアセスメントしている。	実技テスト ワークシート チェックシート	実技テスト 振り返りシート	授業ノート チェックシート 振り返りシート
	基礎演習②	・メロディーを歌いながら演奏し、弾き歌いの基礎を学ぶ ・簡単な連弾の演奏法を学ぶ ・発表会	a: 楽曲の構造や基礎理論を理解して演奏している。 b:自分の音と相手の音を正確に聞き取り、工夫しながら演奏表現している。 c:自らの演奏・表現について主体的かつ正確にアセスメントしている。	実技テスト ワークシート チェックシート	実技テスト 振り返りシート	授業ノート チェックシート 振り返りシート
後期	基礎演習③	・童謡等の弾き歌い ・発表会	a:鍵盤楽器演奏等に必要な基礎理論を理解して演奏する技能を身につけている。 b:聴衆を想定し、工夫しながら独自の意図をもって表現している。 c: 自分及び他者の演奏・表現について正確にアセスメントしている。	実技テスト ワークシート チェックシート	実技テスト 振り返りシート	授業ノート チェックシート 振り返りシート
	基礎演習④	・4手連弾演奏を学ぶ ・発表会	a: 曲にふさわしい演奏方法で、創意工夫を生かしてピアノ演奏をしている。 b: 音楽理論を理解して、個性豊かに表現している。 c:自分及び他者の演奏・表現について正確にアセスメントしている。	実技テスト ワークシート チェックシート	実技テスト 振り返りシート	授業ノート チェックシート 振り返りシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度